



おおはし Michiko
◆大橋みち子 議員

病児・病後児保育は

町長 保護者のニーズに寄り添う

答

子育て世帯の経済的な負担軽減を図るため、病児・病後児保育施設及びファミリー・サポート・センターで利用できるクーポン券（1人につき4000円分）を配布。0歳から6歳までの未就学児童が対象となる。

問

子育て世帯支援クーポン券事業とは。

答

事業所がホームページを開設。町では広報 ホームページ、子育て応援サイト「ようろうっこ」に掲載。利用するには「病児保育ネット予約サービス」あずかる「ちゃん」にて予約する。

問

病児・病後児保育施設の周知は。また利用方法は。

答

利用会員と提供会員の相互活動となり、会員登録が必要である。利用会員の世帯は、町に住民登録があり、生後1ヶ月から小学校6年生までの子ども世帯。サポート内容は、一時預かり、送迎、訪問託児、学校行事、医療機関を受診する際の預かりなどがある。

問

ファミリー・サポート・センターとは。

小さいお子さんを持つ保護者の「困った」をサポートする「病児・病後児保育施設」、「ファミリー・サポート事業」で、町の子育て支援の充実を図る。



病児病後児保育施設 Support you



しみず ゆみこ
◆清水由美子 議員

今後の移住への取り組みは

町長 引き続き調査・研究に努める

答

空き家バンクの活用のみならず、古民家再生に精通した団体・アドバイザーとの連携により、魅力ある住空間

問

ヨロフィスの取組みを踏まえ、今後の空き家・移住への施策は。

答

移住者に定住していただき、管理が行き届かない空き家の増加を抑止、地域の活性化に繋げるが第一目的。

問

バンク活用は、定住目的とあるが、店舗としての活用は。

答

平成29年度から令和7年5月末までの登録件数は、空き家23件、空き地13件。空き家6件が契約に至った。

問

空き家空き地バンク利用実績は。

答

現在は利用希望者はいないが、希望者の動向、地域ニーズを注視しながら、農業委員会等と連携のうえ、実現可能性について研究していく。

問

今後、都市部からの移住を呼び込む「農地付き空き家」の取組みは。

間や事業拠点の創出も視野に入れる。地域活性化、移住定住促進を調査研究する。

令和7年度の主要施策の一つに「住環境の改善」がある。今後の空き家空き地バンク、移住への町の取り組みに注目する。



YOROffice HPより抜粋

一般質問

町の考えを問う

9人の
議員が登壇

6月定例会では9人の議員が登壇しました。ここでは、質問と答弁を要約した内容を登壇順（質問順）にお知らせします。また、それぞれの議員のQRコードより一般質問の録画放送をご覧頂けます。

質問議員	質問事項	ページ
おおはし Michiko 大橋 みち子	◎病児・病後児保育は	9
まつなが たみ お 松永 民夫	◎ 旧町民プールの福祉施設構想は ◎ 不登校とひきこもり対策は	10
しみず ゆみ こ 清水 由美子	◎ 今後の移住への取り組みは	9
いわなが よしひと 岩永 義仁	◎ テレワーク施設の運営状況は ◎ 新設される橋爪大橋は ○ 給食費無償化の実施は ○ こどもの権利条例制定を提案	11
さの しんや 佐野 伸也	◎ 譲渡計画終了後の改良住宅は	12
のむら えいいち 野村 永一	◎ 独自ビジョンの具現化は	12
みずたに くみ こ 水谷 久美子	◎ 国保も資格確認書を全加入者に ◎ 相続登記の義務化対応は ○ 養老中央公園の環境整備は	13
よしだ たろう 吉田 太郎	◎ 山林火災対策は	14
にしわき やすし 西脇 康	◎ 農業の現状と今後は	14

＜注＞○印の内容は編集上掲載しておりません。